

モルドバの議会選挙（620号）

2025年 10月 石館

昨年11月に行われた大統領選挙で親欧米派のサンドゥ氏が僅差で大統領になったのはレジメにも書いてきました。また2021年に行われた議会選では親欧米派のサンドゥ大統領の支持基盤である“行動と連帯（PAS）”が得票率52.80%で過半数を獲得し、勝利していた。それ以前は、親ロシア派のドドン前大統領主導の社会党・共産党連合が議会で過半数を占めていた。



モルドバ共和国は人口約260万人、国土は日本の九州よりやや小さい小国である。首都はキシナウ。西はルーマニア、北・東・南はウクライナと国境を接している。

9月28日議会選が行われたが、このような小国の選挙が何故世界の注目を浴びているのであろうか。

1991年、ソビエト連邦崩壊に伴いモルダヴィア共和国は独立を宣言し、現在の“モルドバ”へと名を改めた。ロシアにすればかってソ連邦の一員であり戦略的な要衝であるモルドバが次第に西側寄りになっていくのを看過するわけにはいかず、あらゆる手を使ってロシア離れを防ごうとして来た。特にロシアのウクライナ侵攻後は次の侵攻の標的はモルドバであろうと見られており、モルドバの国内事情は注視されてきた。

9月28日に実施された議会選（定数101、一院制）が実施され、事前の予測ではロシアによる激しい選挙干渉により、与党が過半数を取るの難しいと見られてきた。ところが親欧米の与党“行動と連帯（PAS）”が得票率50.2%（前回は52.8%）で辛うじて単独過半数を維持した。これによりEUへの統合路線を継続する。

ロシアとの関係改善を訴える野党は選挙不正を訴えて反政府集会を呼び掛けており、混乱が広がる可能性が高い。

中央選管によるとPASの獲得議席数は前回選挙の63から減るものの、55を確保する。親口派の野党連合“愛国者ブロック”が24.17%、キシナウ市長などが設立した中道の政党ブロック“オルタナティブ”が7.96%を確保した。



28日、モルドバ議会選「ロシアが買収工作」と大統領：時事...

記者会見するサンドゥ大統領

サンドゥ大統領は29日の記者会見で“モルドバ国民はロシアの干渉にも関わらず、モルドバのために投票した。EUへの道が選択されたことを嬉しく思う”と勝利宣言した。

モルドバは大統領よりも議会に権限がある。与党は引き続き単独で政権運営を担い、2030年までのEU加盟に向けて改革を急ぐ。モルドバはウクライナ支援の物流拠点の一つで、サンドゥ政権は避難民の受け入れを含めて支援政策を継続する。

選挙戦では与党による欧州統合路線の是非が争点となった。EU加盟路線を支持する若者や在外有権者の投票率が上昇し、与党の追い風となったようだ。欧州諸国もロシアに対抗し、モルドバの引き留めを図った。8月末に仏独とポーランドの首脳がキシナウを訪れ、与党への支持を訴えた。EUは3月に19億ユーロの支援を決定し、モルドバの経済成長を長期的に支えるとも表明した。



モルドバの美人

小生はモルドバの隣国であるルーマニアには何回も入り、モルドバとの国境近くにも行ったことがあるが、モルドバには入ったことが無い。ただモルドバの人種は75%がルーマニア系で、言語もルーマニア語で、入ったことが無くてもモルドバのことは大体想像がつく。いつも美人の話をして恐縮ですが、トーマンの

ルーマニア事務所の女性も皆美人だったが、モルドバも大統領もそうだが美人国の様だ。



ヴィナリアワイン - モルドバワイン・ヨーロッパのプレミアムワイン

ワイン祭りで民族衣装を着た地元の人々

モルドバはワインの国として知られ、その歴史は数千年に及ぶ。豊かな自然と肥沃な大地に恵まれている。ルーマニアのワ

インも美味しいものが多かったがモルドバのワインは絶品のようなものである。これは土壌にもよるが、何ととってもぶどう栽培に適した穏やかな大陸性気候で、南部の黒海から暖かい空気が流れ込むためである。

モルドバは、ヨーロッパでもまだ知られていない隠れた魅力を持つ国で、日本人でもモルドバに行ったことがある人は稀のはずである。首都キシナウの近郊にもまだ観光地化されていないが素晴らしい観光スポットがある。



キシナウの近郊にあるキシナウ市民の憩いの場である公園

選挙の話だけでは味気ないと思い、美人とワインと観光の話を間に挟んだが、今後この国はどこに向かうのであろうか。

2021年の議会選で親EU派が52.8%の得票だったが、今回の議会選で50.2%と得票が落ち込んだ。本来なればウクライナ侵攻の後の選挙ではアンチロシアの票が多くなってもおかしくないが、今回の議会選ではロシアによる徹底的な選挙干渉の中でも何とか過半数を取れたのは成功だったとみることが出来るかもしれない。

ただモルドバはロシアと長い歴史があり、このまま一気に親西欧になだれ込むとは考えられない。エネルギー政策でもロシアとの関係が深く、ロシア離れをしようとしても、かえって価格が上がり国民生活を追い込むことになり、むしろロシアの傘の下にいた方が良いとの意見も多い。

NATO加盟についてもウクライナのように加盟一辺倒の世論ではない。来年大統領選挙があるが、エネルギー価格の高騰、インフレの高進で、果たして現政権が継続できるか疑問である。勿論その前にウクライナ侵攻問題がどのように解決するかにより、モルドバとロシアの関係は大きく変わるであろう。